

(仮称) 小金井市新福祉社会館建設に関する庁内検討委員会 (第12回)

## 次 第

日 時：平成30年1月29日 (月)

午前8時30分から

場 所：本庁舎3階 第一会議室

(委員長挨拶)

### 1 連絡・報告事項

### 2 議事

- (1) (仮称) 小金井市新福祉社会館機能に係る市議会及び会派意見、決議に対する検討について
- (2) 今後の予定等

### 3 その他

(仮称) 新福祉社会館建設基本計画策定に係る行政の検討状況について

1 総合相談窓口について

福祉総合相談窓口は、生活困窮者自立支援制度による自立相談支援の体制を母体とした相談、情報発信等の機能として整備したいと考えています。

行政の関与と責任を明確にした体制のもと、多くの市民が集う場である新福祉社会館での設置をめざしてまいりたい(別紙資料1)。

2 小金井市悠友クラブ連合会事務局について

悠友クラブ連合会については、昭和38年の設立以来、社会奉仕活動、友愛活動、生きがいを高める活動、健康増進活動など、高齢者福祉の増進に大きな役割を果たしています(平成30年1月現在会員数約1,500人)。

(仮称)新福祉社会館の基本コンセプトである「地域共生社会を実現するための拠点」の連携をより一層強化するため、(仮称)新福祉社会館に導入することとしたい(別紙資料2)。

3 地域の高齢者サークル等の居場所について

(仮称)新福祉社会館は、世代を問わず、多くの市民の方にご利用いただきたいと考えますが、高齢者や障がいをお持ちの方が多目的室やマルチスペースを優先的にご利用いただけるよう、運用方法を検討してまいります。

4 シルバー人材センターについて

小金井市シルバー人材センターについては、昭和51年の設立以来、高齢者に社会参加・就労の機会を提供するとともに、地域の活性化に貢献してきました(平成30年1月現在会員数約1,100人)。

(仮称)新福祉社会館の基本コンセプトである「地域共生社会を実現するための拠点」の連携をより一層強化するため、(仮称)新福祉社会館へ導入することとしたい(別紙資料2)。

## 5 福祉共同作業所について

利用者保護者は現在の場所での運営を望んでおり、福祉共同作業所をご利用している保護者の方と事業運営受託者である法人と今後の作業所のあり方について、一定の方向性を見出すべく、継続して意見交換を行っています。

福祉共同作業所を新福祉会館に設置せずとも、新福祉会館という施設が、障がいのある方々の居場所や働く場となるよう検討してまいります。

(別紙資料 1)

(仮称) 新福祉社会館に悠友クラブ連合会及びシルバー人材センターを導入することについて

(仮称) 新福祉社会館の基本コンセプトである「地域共生社会を実現するための拠点」の連携をより一層強化するため、現在未導入機能となっている悠友クラブ連合会事務局機能及びシルバー人材センター事務局機能(一部会議室・作業スペースを含む)の高齢者福祉関連機能を導入する。

小金井市悠友クラブ連合会の主な活動

社会奉仕活動、友愛活動、生きがいを高める活動、健康を進める活動

小金井市シルバー人材センター事業理念

「就業を通じ活力ある地域社会づくりに尽くし、助け合いながら仲良く誠実に」

上記の活動や事業理念に基づく事業等は、地域共生社会の実現を目指す本市にとって極めて重要である。

【導入の背景】

○導入の必要性、効果ともに意義は大きいと考えていたところ、現状の(仮称) 小金井市新福祉社会館建設基本計画(案)では、より不特定多数の市民を対象とした機能を優先し、未導入となっていたところである。

○現在の素案に対し、市民検討委員の会議では、「高齢者向けの機能が弱いのではないか」との意見も出され、昨年12月に行われた市議会の議員間討議では、「当該団体等について導入すべき」との市議会としての最大公約数の意見が出されたところである。

○団体との協議を進める中で、導入により高齢者の生きがいや生活の充実が図られるとともに、他の機能との連携、異世代交流等がより一層活性化し、活力ある地域社会づくり及び地域共生社会の実現に資するものと総合的に判断。

【導入の必要性】

人生100年時代を見据え、地域での活動及び就労意欲のある高齢者がこれまで培った能力や経験を活かし、生涯現役で活躍し続けられる社会環境を整えていくことが必要である。とりわけ65歳を迎える団塊の世代が社会から引退過程に入りつつある中、生きがいを感じながら地域において活動できる場、活躍できる環境の整備に早期に取り掛かることが重要である。

## 【導入の効果】

### (1) 悠友クラブ連合会

ア 自主的かつ民主的に社会奉仕、友愛、生きがい、健康づくり等の推進が図られているほか、老人クラブの基盤づくり、仲間づくりにも尽力しており、地域コミュニティの一層の活性化につながる。

イ 社会福祉協議会主催活動である一人暮らし高齢者交流会、チャリティーバザー等への一層の協力、支援が可能となる。

### (2) シルバー人材センター

ア 市からの受託業務（施設管理、広報紙配布、放置自転車監視・整理、敬老会行事運営、軽度生活援助等）の円滑な調整、履行が見込まれる。

イ 学習、英会話、囲碁、パソコン等の各教室事業の認知度向上とともに社会福祉協議会、小金井市悠友クラブ、子ども家庭支援センターとの連携強化が図られる。

ウ 会員数 1,137 名のうち就業実人員は 1,000 名、年間就業率 88.0%を超え、かつ就業会員 1 人あたり平均の年間就業日数は 140 日を超える実績を有している。この仕組みの浸透と拡充は生涯現役で活躍し続けられる社会環境の整備につながる。

エ 急な業務依頼があった場合でも、多くの会員が参集しやすいため迅速な対応が出来ることから、確実に請負契約を結ぶことが可能となり、就業機会の提供拡大につながる。

オ 業務依頼は高齢者が多いため、金融機関での振り込みが苦手な方が多く、費用を直接持参したり、業務依頼について電話で意を伝えることが難しく直接来所して説明されるケースも多いため、お客様の利便性が飛躍的に向上する。

### (3) 共通事項

ア 市の中央部に位置し、庁舎に隣接していることにより多くの市民の方の目に触れ、両団体の周知、認知度の向上及び会員数の増加が見込まれる。

イ より多くの高齢者が生きがいを持って社会参加することは、健康の維持増進と介護予防の効果が期待できるところであり、社会保障費の負担軽減にもつながる。

## 【公共施設マネジメントの視点】

行政財産目的外使用許可によるシルバー人材センター事務所、貫井北町高齢者作業施設、本町暫定庁舎内本町作業所、高齢者作業施設（リサイクル事業所内会議室）について、多機能・集約化を推進する。

**【想定面積】**

○悠友クラブ連合会

約 30 m<sup>2</sup>程度（旧福社会館と同程度を想定。）

○シルバー人材センター

約 280 m<sup>2</sup>程度（現在の使用面積約 460 m<sup>2</sup>から集約。）

※280 m<sup>2</sup>の内訳・・・事務室及び作業スペース約 200 m<sup>2</sup>、会議室約 80 m<sup>2</sup>（会員研修、班会議、教室事業等で使用。悠友クラブとの共用を想定。）

(別紙資料 2)

